



金目川水系 せせらぎ通信

市民が結ぶ森と川と海のつながり

昨年12月20日(日)平塚市民活動センターにて浜口哲一先生(神奈川大学理学部特任教授)を講師に招き「森と川と海のつながり」についての講演と「森の保全、川の状態と課題、海の変化」についてのパネルディスカッションが開催されました。

コーディネーター

浜口哲一先生

パネラー (各代表・敬称略)

鈴木盛彦

(丹沢山塊の自然を考える会)

小清水四郎

(里山をよみがえらせる会)

柳川三郎

(金目川水系流域ネットワーク)

峯谷一好

(相模川湘南協議会)

原田 進

(県環境科学センター専門員)

以上のメンバーで活発に意見交換が実施されました。



講演の内容については非常にわかり易い話し方でとても興味を湧く講演でした。
「金目川流域の様子」
上流の緑の森そして中流の水田を考える必要性
「落ち葉の行方、落ち葉から森、川海のつながりを考える」
また「魚から川の環境を考える」流域の都市化とのかかわり、を考える等さまざまな課題があることが理解できました。
パネルディスカッションにおいては各々の会の活動報告と今後の課題等が発表され最後に会場との意見交換が行われ盛況に終了しました。
参加者は延べ人数で101名でした。



「金目川クイズに」チャレンジ

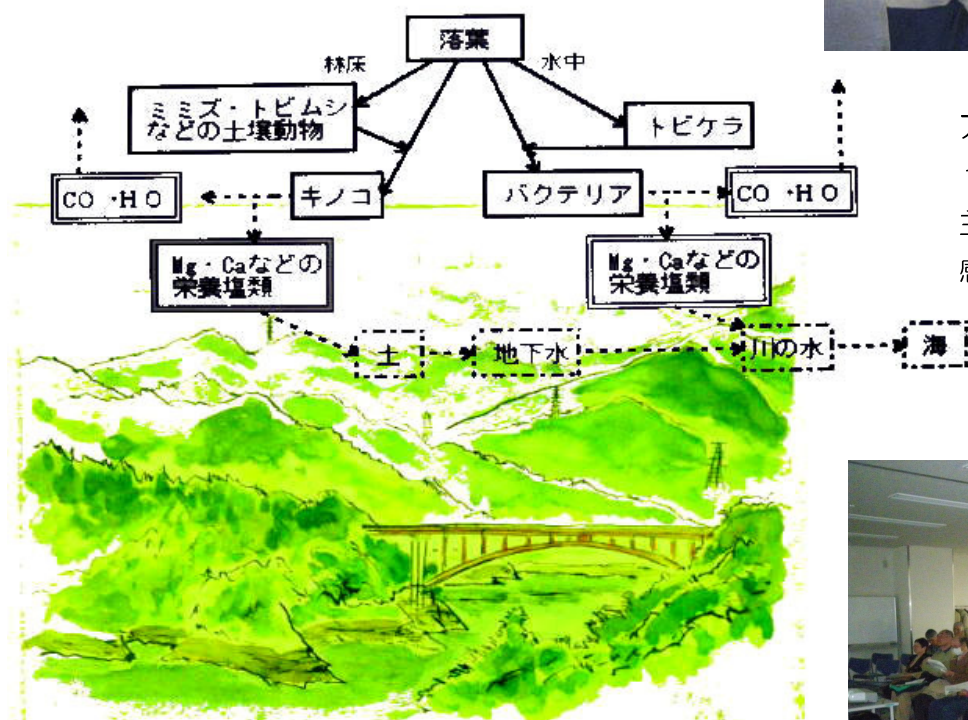


- ① 金目川の水源の山で一番高い山は？
ア. 大山 イ. 塔ヶ岳 ウ. 鍋割山
- ② 一生川でくらす魚はどれ？
ア. コイ イ. アユ ウ. ウナギ
- ③ 金目川の水が一番汚れていたのはいつごろか？
ア. 今 イ. 20年くらい前 ウ. 50年くらい前
- ④ 生き物が水の汚れで一番汚れているところいるのは？
ア. ユスリカの幼虫(赤虫) イ. ヒラタカゲロウ ウ. ミズムシ
- ⑤ 川に落ちた落ち葉を片付けるのは何かな？
ア. イワナのような魚 イ. カワガラス ウ. トビケラのような川虫

(回答は、つぎのページにあります)



落葉の行方 <落葉から森川海のつながりを考える>



アンケートの集約で数名の人から
120%ためになったとの声が出ました。
主催の立場で関係者の皆様に
感謝いたします。

柿田川シンポジウムが、11月
14日(土)に沼津市の会館で開
催され、富士山の湧水で有名な
柿田川のことや活動の様子を
知る目的で柳川会長と西岡が
参加しました。シンポジウムの
主催は柿田川生態系研究会で、
地元で柿田川の保全を進めて
いる活動家、一般市民や、大学
関係者など70名前後の参加者
がありました。シンポジウムの
内容は次の通りです。

柿田川シンポジウムに
参加して
西岡 哲



熱心に聴く参加者たち

講師出題の

金目川クイズの回答

- 1.『柿田川の形をみつめる』 知花 武佳
(東京大学大学院 工学系研究科 講師)
- 2.『柿田川の動物群集を支える有機物の起源と特徴』 竹門 康弘
(京都大学防災研究所 水資源環境研究センタ 准教授)
- 3.『柿田川底生魚種の動向、狩野川との関係』 板井 隆彦
(静岡淡水魚研究会 会長)
- 4.『アユと川』 川那部 浩哉 (滋賀県立琵琶湖博物館 館長)
- 5.『世界の水、日本の水』 竹村 公太郎 (日本水フォーラム事務局長)

- ① イ. 塔ヶ岳
- ② ア. コイ
- ③ イ. 20年くらい前
- ④ ア. ユスリカの幼虫
(赤虫)
- ⑤ ウ. トビケラのような川虫



シンポジウムは柿田川の学術的な調査の報告と金目川でも話題になるアユに関する話。さらに21世紀が抱える水問題と内容の濃いものでした。

個人的に興味を引いたのは、知花先生が洪水時に安定する川幅と水深比は1:30〜40になることを多くの河川の調査でわかってきたという点でした。金目川の構造がどうなっているのか、調べてみたいと思います。

柿田川には数回行っているのですが、柿田川が世界的に見ても不思議な川だということと今回のシンポジウムで初めて知りました。

富士山の伏流水が柿田川公園のところで湧き出し、その源流ですでに川幅40〜100メートルとなり、わずかに延長約1200メートルで狩野川に合流する盲腸みたいな川なのです。

富士山周辺で降った雨水や雪だけ水が地下水になって湧き出してできた日本最大の湧水河川です。

水温は年間を通じて15℃前後、大雨が降っても流量もほとんど変化がない極めて安定した環境を有している河川のためか、砂をまきあげ涌水水温は年間を通じて15℃前後、大雨が降っても流量もほとんど変化がない極めて安定した環境を有している河川のためか、砂をまきあげ涌水しているところでアユを観察することが出来ます。



柿田川湧水公園は三島市内を走る国道一号線のわきにあり、アクセスが容易なので是非一度訪れることをお勧めします。また、水の良い三島には、おいしいうなぎ屋が多数あります。

そちらも「賞味してみる」とをお勧めします。



コラム

からくり人生

岩本 勲

「おい、ぼうず。お前、金持ってるか？」

アセチレンランプの匂いとまぶしい光。あんな絵が出てきて、ひっくり返すとあら不思議、ぜんぜん別な「あらかん」の鞍馬天狗が出てきた。あ！ちよっと待って・・・

「金がねえんなら、ぼうずあっち行け。」
テキヤという職種があるということはずっと後でわかったんだと思う。

あれはなんだったんだろう。不思議・千万。ずっと意識の底にあったあれが自分の手でできて、みんなにも教えられる。60過ぎてふとしたきっかけで作れるようになった。

「からくり屏風」・なんか・結構・はまっちゃった。

探求心旺盛なおれ・・・金目川水系流域ネットワークとかかわりのきっかけは。

やはり、昔から思っていた田んぼの水はどこからくるか？流れている水をさかのぼれば・・・どんどん歩いていった。歩いては無理とわかれれば・・・自転車でいった。リタイアした後じゃなければ、こんなことはできない。

あれ？どんどん細くなり・・・ついには水はトンネルから出てくるようになった。また、再挑戦。

人間が営々と築いた用水路。気が遠くなる。こんな話のきっかけがネットワークの仲間とのつながりになった。

「開催目的」

平成 21 年度中に試行をはじめた「湘南里川づくり」を流域で活動する方々に周知するとともに
22 年度中の本格実施に向け、参加者の意見を集約し、仕組みに反映させる。

「実施内容」

日時 平成 22 年 1 月 31 日(日) 13 時 30 分～16 時 30 分

場所 東海大学湘南校舎 13 号館(会場 201 教室)

平塚市北金目 1117Tel0463-58-1211

定員 200 名

当日受付(事前申し込み不要)・参加無料

主催 湘南里川づくり推進検討会

(神奈川県、平塚市、秦野市、伊勢原市、流域の環境保全活動団体等)

共催 ・NPO法人東海大学地域環境ネットワーク

・東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程

・東海大学大学院人間環境学研究科

「内容」

・開会

・湘南里川づくりのこれまで

・(公募)受賞者表彰式

「湘南里川づくり」シンボルマークと、その活動に取り組む方々の名称

・湘南里川づくりの新たな仕組み → 質疑応答

<休憩>

○湘南里川づくりのビジョン

・総論

・水源エリア説明→質疑応答

・市街化エリア説明→質疑応答

・農業エリア説明→質疑応答

・閉会

金目川水系流域ネットワークは
「湘南里川づくり」の
当初ワークショップから参画
いたしております



「パネル展示」

—金目川水系流域での

市民による環境保全活動を紹介する—

日時 1 月 31 日(日) 10 時～17 時

会場 Sプラザ 東海大学 10 号館

{金目川水系流域ネットワーク 会員募集}

豊かな自然と地域文化を子どもたちにつなげよう。

自然と人間との関係を改めて見直そう。

いろいろの分野で活動する団体や個人の交流を図りましょう。

川を総合的に調査して、川のより良いあり方を目指そう。

「これからの計画」

1. せせらぎ通信の発行

2. 金目川水系流域の夏・水温調査(66地点)

3. 金目川 夏休み 生き物観察教室

中流 金目観音橋付近、小学生と共に

4. ウォーク&バードウォッチ・金目川沿い

前河原橋→土屋橋→親水公園→金目観音

日時 2 月 21 日(日)午前 10 時 —集合 金目ふれあい広場—

5. 金目川下流の土手と 川原のごみ掃除

日時 3 月 7 日(日)午前 10 時 —集合 平塚大橋(金目川)—

担当(平塚市南金目 722-2、Tel & Fax 0463-59-2000)

柳川 三郎

編集後記

せせらぎ通信 26 号は新しく生まれ変わりました。

会員の有志がタイトルバック等考案し編集委員(事務局)で
決定いたしました。

少しでも多くの人達に読んで知っていただく為に

イメージチェンジを図りました。お気づきの点等御座いまし

たら事務局まで御連絡ください。